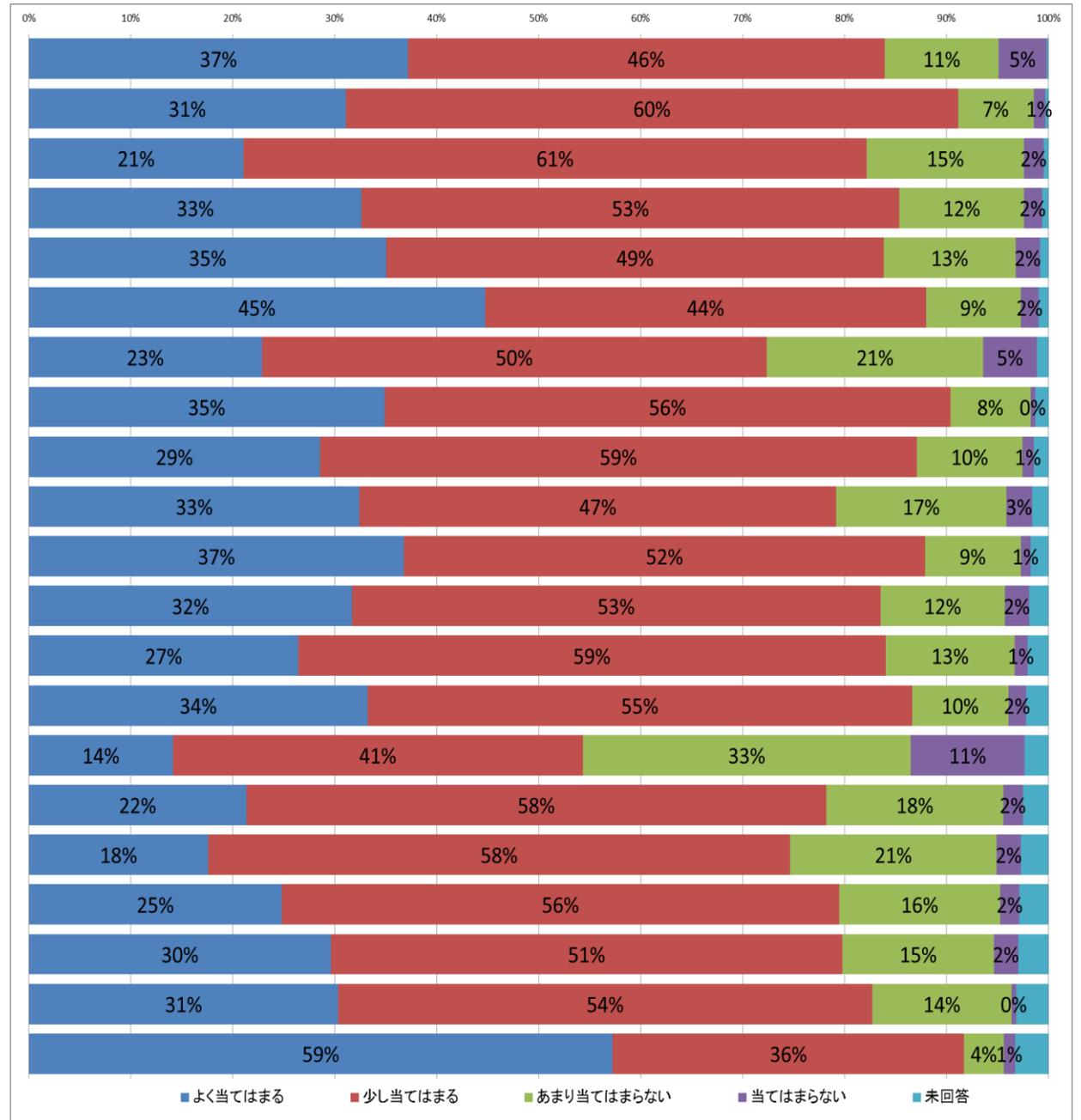


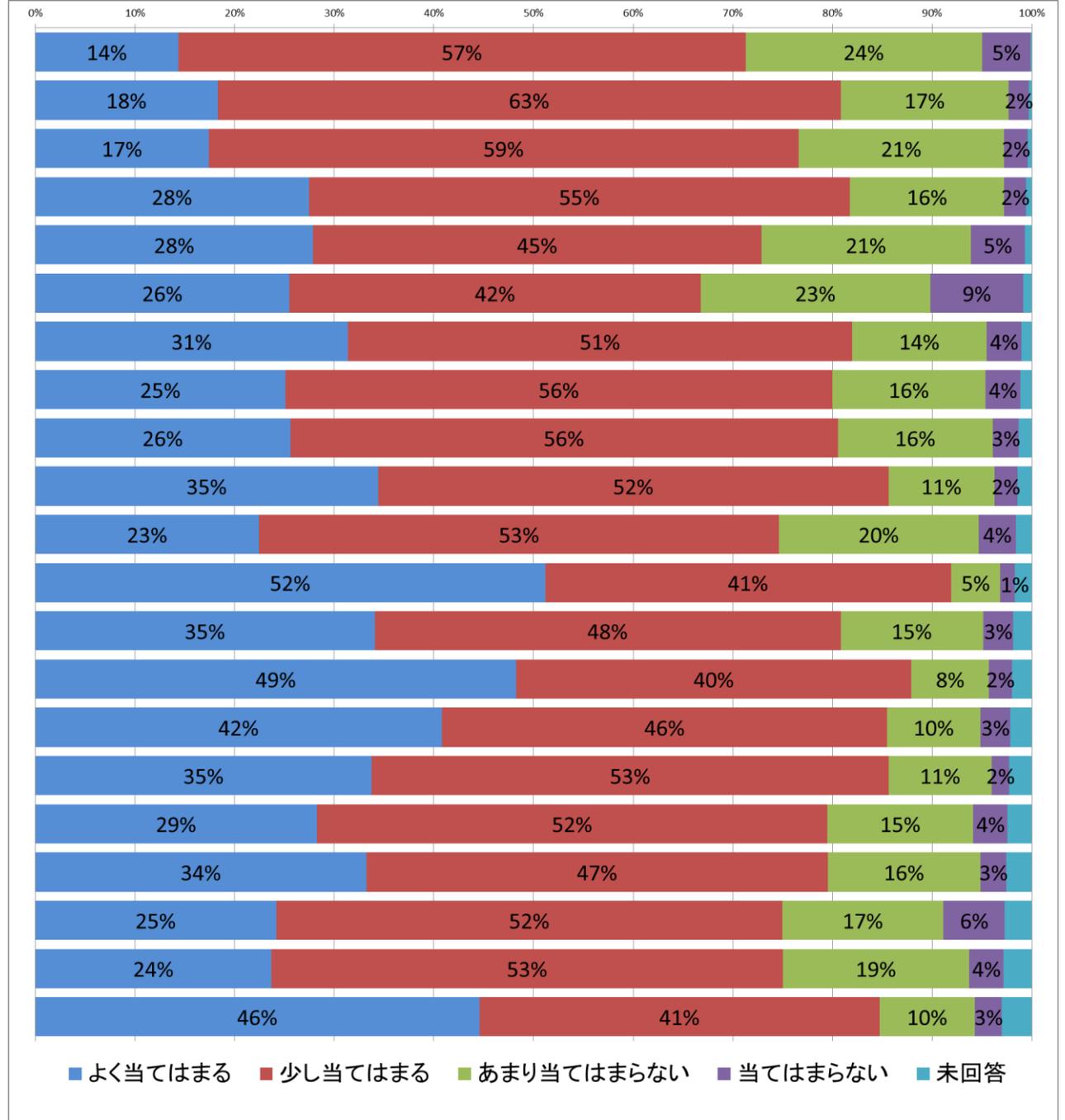
平成 28 年度 宮城県古川高等学校 学校評価（保護者用）

- 【質問 1】本校の校訓・教育目標を知っている。
- 【質問 2】学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。
- 【質問 3】生徒の理解度に応じた学習活動が適切に行われている。
- 【質問 4】進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。
- 【質問 5】進路ガイダンス、講演会、進路学習は有意義で参考になった。
- 【質問 6】土曜講座、蜚雪講座、課外講習は学力を伸ばし進路達成に役立つと思う。
- 【質問 7】学校からの便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。
- 【質問 8】清掃や営繕等の学校内外の環境整備はきちんとなされている。
- 【質問 9】心身の健康や安全管理について、適切な指導が行われている。
- 【質問 10】災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられていると思う。
- 【質問 11】挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。
- 【質問 12】学校は部活動を通して個性の伸長や人格形成がなされるように適切に指導している。
- 【質問 13】生徒会活動は活発に行われていると思う。
- 【質問 14】学校は行事等を通して多様な体験ができるよう適切に指導している。
- 【質問 15】PTA・学校行事への参加や、本校ホームページの閲覧等によく行う。
- 【質問 16】教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。
- 【質問 17】学校は、いじめの早期発見に取り組んでいる。
- 【質問 18】図書館は子どもたちの学習や読書活動に役立っている。
- 【質問 19】校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。
- 【質問 20】地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。
- 【質問 21】子どもの学校生活は概ね満足できるものであり入学させてよかったと思う。



平成 28 年度 宮城県古川高等学校 学校評価（生徒用）

- 【質問 1】 学校生活において本校の校訓を意識して行動している。
- 【質問 2】 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。
- 【質問 3】 生徒の理解度に応じた学習活動が適切に行われている。
- 【質問 4】 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。
- 【質問 5】 進路ガイダンス、講演会、進路学習は有意義で参考になった。
- 【質問 6】 土曜講座、蛍雪講座、課外講習は学力を伸ばし進路達成に役立つと思う。
- 【質問 7】 学校からの便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。
- 【質問 8】 清掃活動などにより、校内が衛生的に保たれている。
- 【質問 9】 心身の健康や安全管理について、適切な指導が行われている。
- 【質問 10】 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。
- 【質問 11】 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。
- 【質問 12】 部活動は活発に行われている。
- 【質問 13】 生徒会活動は活発に行われている。
- 【質問 14】 有意義な学校行事がある。
- 【質問 15】 学級は好ましい雰囲気であり、いごちがよい。
- 【質問 16】 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている。
- 【質問 17】 学校は、いじめの早期発見に取り組んでいる。
- 【質問 18】 図書館は資料も充実しており、環境・雰囲気もよく利用しやすい。
- 【質問 19】 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。
- 【質問 20】 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。
- 【質問 21】 学校生活は充実しており、入学してよかったと思う。



平成28年度 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 学力の向上に努め、「学問尊重」を身につけさせる学習指導の充実を図る。
- 2 古高精神（蛩雪魂）を育成し、「自主自律」・「質実剛健」を身につけさせる。
- 3 生徒一人ひとりの進路志望の達成を図る進路指導の充実に努める。
- 4 学校不応を未然に防ぐ教育相談活動を充実させ、セーフティネットづくりに努める。
- 5 学校行事や特別活動等の活性化と充実を図る。
- 6 新学習指導要領に基づく教育活動の深化を図るとともに指導方法の展開を探究する。
- 7 創立120年目の節目を迎え、教育活動の再検討と新たな取り組みの検討・実践を通して、一層の飛躍を図る。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	基礎学力の定着及び自学自習力の養成	B	これまでの取組に加え昨年度のネクスト委員会の提案から、自主的に学習に取り組む手立ての一つとして、英数国3教科とも、新たに長期休業明けの課題テストの一部に 응용問題を入れた。単年度だけでなく今後も継続して実施していく。	A	A
	学習指導の充実及び授業による生徒の育成	B	これまでどおり授業を大切に、小テストや週末課題、朝自習などで定着させる指導を行った。今年度は、その他、アクティブラーニング型授業やICTを活用した授業などもみられた。次年度もこのような学習指導の充実、生徒の育成に繋がる指導を行っていく。	A	B
	教科指導力向上のための研修等の推進	A	県のオンデマンド事業において数学の授業公開を、県高等学校英語教育研究会の会場校として英語の公開をそれぞれ行い、指導主事からの助言をいただいたり参加した先生方からご意見をいただいたりして、指導力向上に努めた。また、シチズンシップ教育の県の指定校となり、合意形成をテーマとして県外視察や授業公開などを行った。次年度も様々な機会を利用して研修を推進していきたい。	A	B
学校関係者評価委員会における意見	日々の学習を定着させ学力向上に向け取り組んでいるのがよくわかります。また、常に新しいものや効果的な方法を取り入れて素晴らしいと感じます。できれば、次年度の計画を立てる際に、評価規準がより具体的になれば達成度がわかりやすくなると思います。ICT教育をするための設備が十分ではないと感じます。設備の補充や予算要求などはできないのでしょうか。				
進路指導	進路意識の高揚と健全な職業観の育成	A	総合的な学習の時間や蛩雪講座を通して、進路ガイダンス、キャリアセミナー、進路ノートの活用などで取り組んできています。今年度は、進路通信において回数、質ともに例年を上回り、進路意識の高揚となった。今後も継続して取り組んでいく。	A	A
	大学・学部・学科の研究	B	出前授業の日程を調整し、生徒の進路選択に役立っている。研究した内容は、冊子にまとめたり互いに発表し合ったりするなどして理解を深めている。今後は、受け身のものを少なくし、体験的な内容をより多くするように検討していく。	B	B
	学力の向上と進路目標の達成	A	3年生は、進路目標達成のため、朝課外や長期休業中の課外を実施したり、模擬試験を活用したりして取り組んだ。学年全体で意識を高め、後半成果が出てきた。1、2年生は、模試の分析をするなどして弱点を把握しながら学力向上に努めた。1、2年における朝課外の取組等を今後に繋げていく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	古高に入学する生徒の多くは大学進学を考えていると思うが、中には明確な目標が決まっておらず漠然としている生徒もいるのではないのでしょうか。そのような生徒にも、今後とも適切に指導してもらいたいと思います。また、数値目標を持って達成度を見られるようになるともっと具体的なものになるのではないかと思います。				
生徒指導	真面目な生活態度、心身共にたくましい生徒の育成	B	各学年とも、基本的な生活習慣の確立と、勉強と部活の両立を目標に掲げ取り組んでいる。現在の状況に満足せずに、より高い文武両道を目指し、様々な手立てを検討していく。	A	B
	勉強だけでなく部活・生徒会・委員会等への積極的参加	A	運動部、文化部ともに、東北大会や全国大会などの上位大会に出場するなど、これまでの活動の成果が実った部が多くあった。今後も生徒の自主的な活動を支援していく。	A	B
	LHRの活性化及び生徒の主体的な企画運営	A	定期戦や古高祭、体育祭など、生徒が主体となって企画運営を行った。次年度は、創立120周年記念行事もあるので、そのような機会を捉え、さらに生徒が主体的に活動できる場を増やしていく。	A	A
	自転車や挨拶など生徒の規範意識の高揚	B	自転車の交通ルールの変更内容などを知らない生徒もいるので、より徹底した指導を行う必要がある。また、携帯電話については、生徒同士で話し合いをするなどして、お互いに校内でのルールを確認し合うように指導していく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	きめ細やかな生徒指導を行い文武両道を実践していると思います。成果が出ていることは素晴らしいですが、上位大会出場以外にも日々の活動の様子を評価することが必要だと思います。交通安全・防犯対策などでは、暗い通学路に街路灯の設置について、PTAが協力し行政・警察へ対応を呼びかけることができないでしょうか。また、交通安全に関する指導もお願いしたい。				
総務	防災体制の確立	A	古高祭において、社会福祉協議会や自主防災組織の方の防災に関わる活動の紹介や避難所体験等を行い、地域との連携を図った。次年度も地域と連携して取り組んでいく。	A	A
保健	教育相談の充実	A	担任、養護教諭、部活動顧問などによる面談や教育相談に加え、スクールカウンセラーを活用することで、不登校やいじめ等の未然防止になっている。また、校内の各部署との連携に努め、教育相談委員会による校内連携の体制も確立している。今後はさらに、特別支援の必要な生徒への対応について、職員の研修機会等を設けるなど適切に対応できるよう努めていく。	A	A
図書情報	情操教育の充実	A	読書感想文コンクール、芸術鑑賞会、小講演会、ビブリオバトルなどを実施した。いずれも図書委員会を中心とした主体的な取り組みとなり、生徒からも好評であった。次年度は、より充実した内容になるように生徒たちに考えさせていく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	地域との連携のあり方について、課題からより具体的な方策を示していければよいと思います。安全安心に関しては、ここまでやったから大丈夫ということはないので、さらなる意識の向上をお願いします。個々の生徒の特性を理解し面談、教育相談等に当たり、さらに、保護者との連携もお願いしたいと思います。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題

改善方策

上位層の進路指導体制の確立

現在、難関大学志望者指導として、ガイダンスや他校との合同合宿、朝課外、添削指導などを行っているが、難関大学合格者10名以上という目標が達成されていない。これらの取り組みを精査し、3年間の指導体制を確立していくことが必要である。